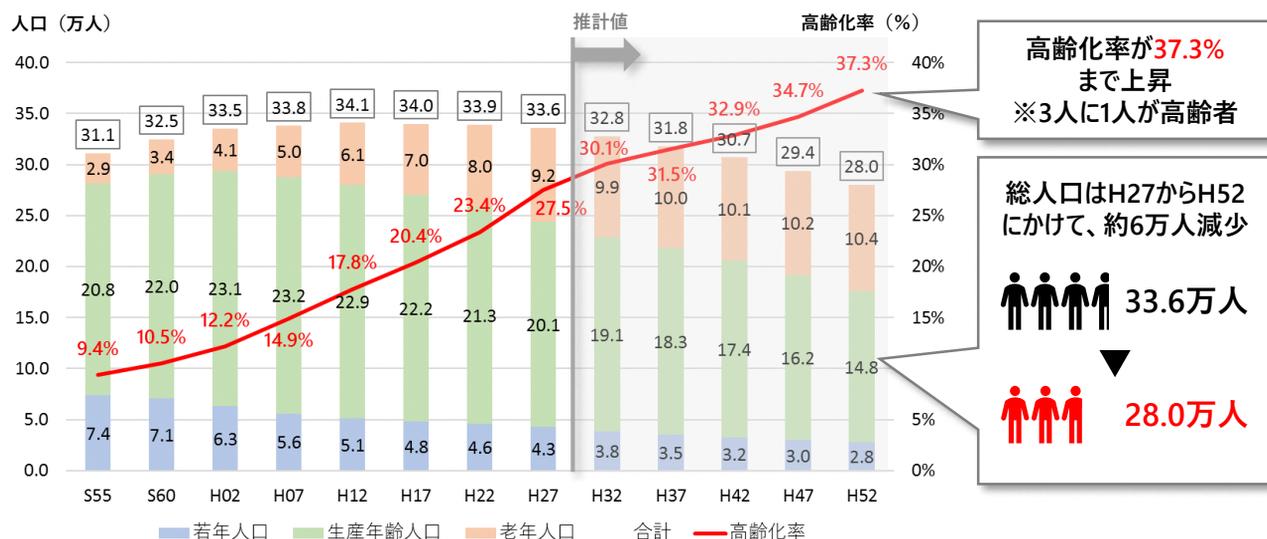


立地適正化計画とは ①

計画策定の背景

前橋市は、既に人口減少・高齢化社会が進行している状況下であり、今後はさらなる進行が予想されるため、将来を見据えたまちづくりの転換が必要となってきました。



高齢化率が37.3%まで上昇
※3人に1人が高齢者

総人口はH27からH52にかけて、約6万人減少

33.6万人
▼
28.0万人

前橋市の人口・高齢化率の推移

これからも人口がどんどん減少し、少子高齢化が進んでしまうんだころ...



このまま人口減少・高齢化が進むと...

生活サービス施設の維持が困難に
買い物に利用する店舗や、オフィスなどが減少し、生活の利便性低下や、雇用の場の喪失のおそれがあります。

公共交通の利便性低下
利用者減少により公共交通の経営環境が悪化し、バス路線の減少など、利便性が低下するおそれがあります。

行政サービスの提供が困難に
税収が少なくなり、都市基盤となるインフラ整備・維持などこれまで通りの行政サービス提供が難しくなります。

地域コミュニティの衰え
町内会などの担い手が不足し、子どもの見守りや防災活動、お祭り行事といった地域の活動の維持が難しくなるおそれがあります。

求められるまちづくり

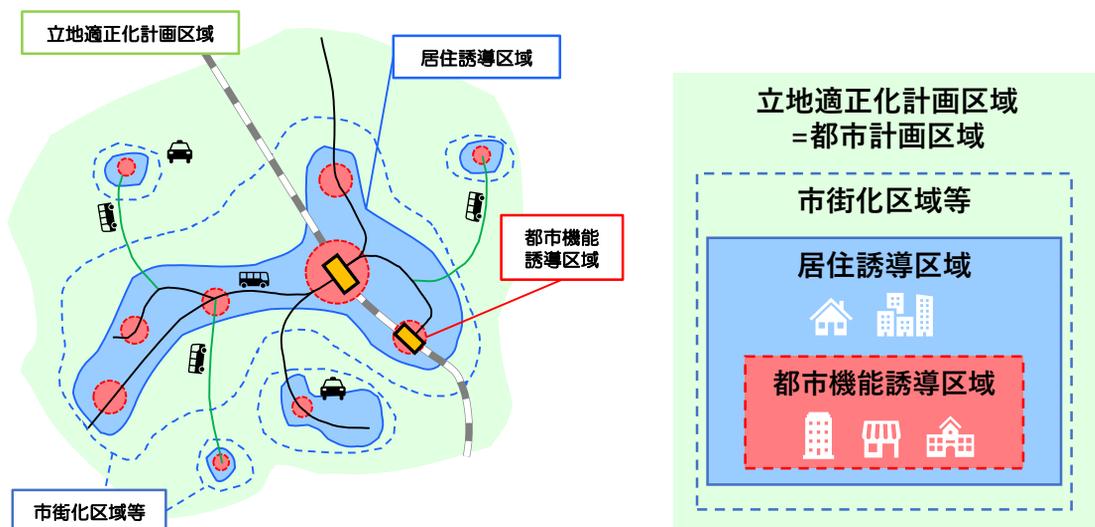
「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」のまちづくり

立地適正化計画

立地適正化計画とは ②

計画の概要

- 立地適正化計画は、都市再生特別措置法に位置づけられた計画であり、医療や福祉、商業施設などの都市機能施設や住宅などの居住施設がまとまって立地するよう、ゆるやかに誘導を図り、住民が公共交通によりこれらの都市機能施設へアクセスできるなど、公共交通と連携したまちづくりを進めるものです。



出典：立地適正化計画概要パンフレット（国土交通省H26.8.1に一部加筆）

都市機能誘導区域

- 鉄道やバスなどの公共交通が利用しやすく、医療や福祉、商業などの都市機能が集約された、各種サービスの効率的な提供を図る区域です
- それぞれの地域の拠点における医療や福祉、商業といった都市機能の集積性を高め、周辺における居住を誘導するまちのコンパクト化を推進します

居住誘導区域

- 人口減少下にあっても、一定エリアにおいて人口密度を維持することにより、日常生活サービスやコミュニティが持続的に確保されることを目指す区域です
- 地域公共交通網形成計画をはじめとする公共交通施策と連携し、公共交通によるアクセス性の高い居住エリアの形成を推進します

『誘導』という言葉だけど、強制するものではなく、長い時間をかけて緩やか～に、この便利なエリアへ住む人を増やしていくイメージだころ

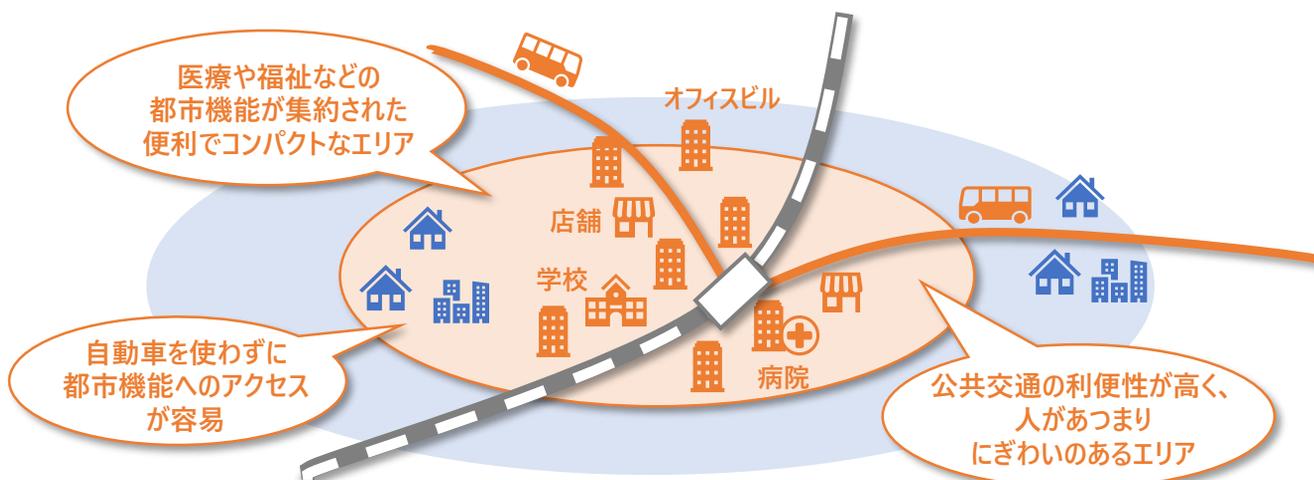


立地適正化計画とは ③

誘導区域のイメージ

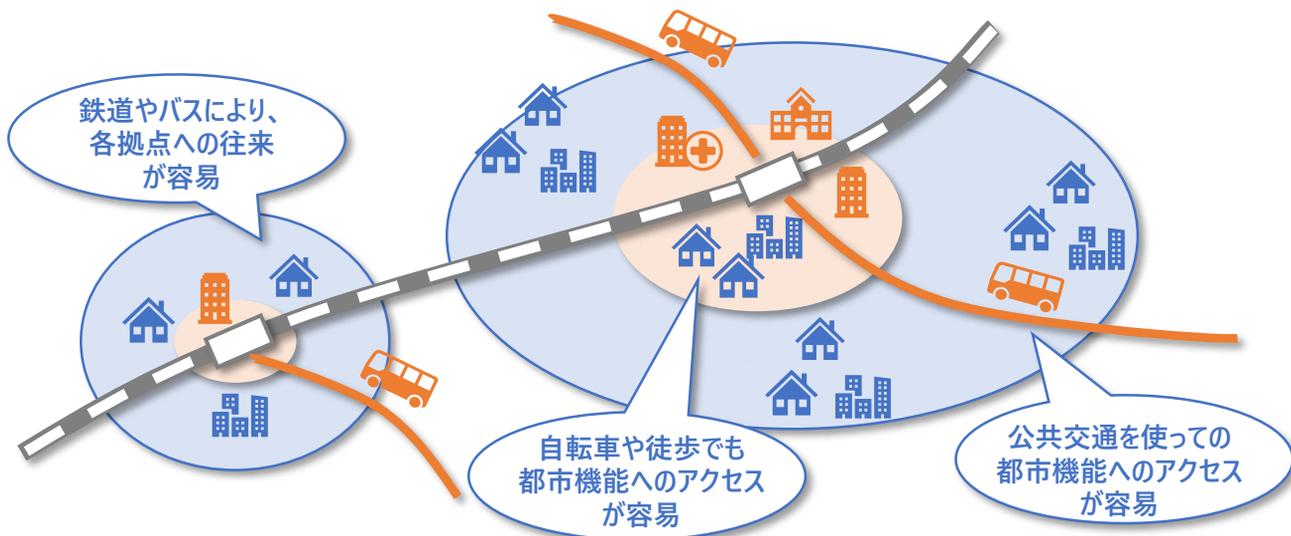
都市機能誘導区域のイメージ

- 医療や福祉、店舗などがコンパクトに集約された、日々の生活に必要な機能が揃う便利な暮らし方が可能なエリアです
- 例えば、会社や学校へは自転車や徒歩で通勤通学でき、帰りには買い物や私用などの活動を楽しむことができます



居住誘導区域（都市機能誘導区域含む）のイメージ

- 自動車以外の交通手段を使い、便利な暮らし方が可能なエリアです
- 例えば、公共交通を利用して通勤し、疲れた体で運転せずに帰宅でき、ゆとりある住環境で暮らすことができます



前橋市のこれからのまちづくり ①

前橋市のまちづくりの基本方針

誰もが多様なライフスタイルで生涯活躍できる 地域連携型まちづくりの推進

- 基本方針 1 都市機能の集積とまとまりある居住の推進
- 基本方針 2 利便性と効率性の高い都市機能の誘導を推進
- 基本方針 3 公共交通の充実によるネットワーク性の向上を推進

都市の骨格構造



前橋市のこれからのまちづくり ③

誘導区域 (案)

【凡例】

- まちなか居住エリア
 - 生活サービス充実居住エリア
 - 公共交通沿線居住エリア
 - 一般居住エリア (居住誘導区域以外の市街化区域・用途地域)
 - 都市計画区域
 - 鉄道
 - バス路線
- 都市機能誘導区域

居住誘導区域(案) <策定中>

